

円居

まどゐ

令和6年12月24日(火)
 備前市立備前中学校
 校長 藤森 卓麻
 0869-64-3365

自分で考え判断する責任

校則改定を機会に自らを振り返る

12月3日の臨時生徒総会后、全校生徒の総意として、今年も『校則改定提案書』が校長へ提出されました。昨年、先輩たちが掲げた備前中の校則に関する理念「決まりの有無にかかわらず、その場に応じて正しく判断する」をもとに、改定の意図や経緯、そして改定後の活動まで丁寧にまとめられた提案書でした。ここまでみんなよく頑張ったなと思いました。が、今の備前中の状況を見ると、やや心配な点があるため、今後の活動（事前、事後の呼びかけ）についてもう少し具体が知りたいという宿題を出しました。考える上でのポイントです。

★髪型の校則が改定されたとき、「衛生面」「安全面」「学校という場の特性」等について考える、とあったが現状は：。「決まりの有無にかかわらず」というのは、好きにしているというわけではないはず。

改定の主な内容

- ・靴
- ・靴下
- ・セーター等

「その場に応じて正しく判断する」



★緩くなったわけではなく、備前中の決まりが、ただ守るための決まりではなく、決まりによって備前中をよくしていくということに変わったということではないか。

◇生徒会の代表が後日、再び報告に。学校としても正式に認めることとしました。

○「見た目」と責任について考える

ー高校出前授業(3年生)から考えるー

岡山東商業高校の先生による、面接についての出前授業が行われました。先生が用意された「身だしなみチェックシート」には、染髪・脱色はしていないか、スカートの長さや靴下の色は「正しい」か、といった項目の他に、制服の汚れや寝ぐせ、物を詰めすぎたポケット、といった清潔感を求めるような項目もたくさんありました。面接試験では、もちろん「見た目」も重要な判断材料です。高校の先生が求めているであろう、ルールが守れる生徒、自分で身だしなみが整えられる生徒、と判断されたいならそういう格好をするべきです。それができないなら高校に認めてもらえないという形で責任をとることになるのでしょうか。

「見た目で人を判断をしてはいけない」とよく言われますが、これは人の内面にきちんと目を向けようということ、裏を返せば「人は見た目で判断されてしまう」ということにつながると思います。実際に、皆さんの髪や服装の状況を見て「備前中が悪くなった」という感想をいただくことがあるのは事実です。それが校則改定の影響ととらえられているのも残念な事実です。

ーフアジャーノの昇格から考えるー

12月7日のブレイオフ決勝に勝利し、フアジャーノ岡山が念願のJ1昇格を果たしました。2006年にフアジャーノを立ち上げ、オーナーとしてクラブ運営に取り組んでいる木村さんですが、苦勞したのはやはりお金です。チームの運営には多くのお金がかかるため、木村さんは協力してくれるスポンサーを探しました。最初はなかなか協力してくれる会社が見つからない中、「サッカー選手はチャラチャラしているから嫌いだ」と多くの人に言われたそうです。

もちろん18年前の岡山の一部の人が持っていたイメージだけの話です。でもそう言われるという現実を目の前にし、フアジャーノは茶髪を禁止し、「絶対に諦めない・笛が鳴るまで走りきる・人間性の優れた」選手を集めるという理想を掲げ、「岡山の人たちに受け入れられ、リスペクトされるような集団」を目指していききました。選手だけでなくこういった皆さんの人たちの取組により、フアジャーノは岡山で多くの人に認められるチームへ成長しました。(そんなチームに成長した今は、茶髪禁止のきまりはなくなりました)体力や技術も必要ですが、見た目や言動に責任を持つことで、周りの人に応援してもらうことにつながったというの間違いのない事実です。

ある別の機会に、「身だしなみはコミユニケーション」という言葉に出会ったことがあります。「身だしなみ」は「見た目」とは少し違った意味で「人を不快にさせないように、服装や言動をきちんとする」といった意味です。大切な人と会うときの服装、大事な場面での言葉遣いや態度というのがあると思います。これらの服装・言動は、目の前の人だけでなく、周りの人に対して自分のメッセージ(敬意とか、自分の物事の捉え方)を伝えているのです。自分が発した「メッセージ」ですから、そこに責任が生じるのは当然ですね。毎日学校に通っている子どもたちの服装や頭髪について、そんな見方で、ご家庭でもぜひお話ししてみてくださいませんか。

余談 ーペルーのクリスマスー

南米ペルーでは約90%がカトリック教徒で、12月ともなると街中派手なクリスマスのデコレーションであふれる。繁華街に限らず、通勤途中の道路も、周りの家の玄関や窓枠にもイルミネーションがピカピカ光っている。家の中にはツリーの他に馬小屋でキリストが誕生したモニュメント。この雰囲気だとクリスマススイブはすごい大騒ぎに：:~と思っていいたら、24日の午後から街中のあらゆるお店や会社は(学校も)閉じてしまう。みんな家に帰って家族と食事を楽しむのだ。ペルー独特のお菓子「パネトン」も登場する。そして夜中の12時、派手に花火が打ち上がり「クリスマスおめでとう!」となる。翌25日は休日。教会に行ったりして静かに過ごす。日本のお正月みたいだった。

それではみなさん、メリークリスマス、そして、良いお年を！